

令和 6 年 4 月 18 日

徳島医療福祉専門学校
校長 末善 守 殿

徳島医療福祉専門学校
学校関係者評価委員会
委員長 市川 公雄

学校関係者評価委員会報告

令和 5 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 市川 公雄 (学園評議員)
- ② 山口 寛 (本校非常勤講師)
- ③ 杉本 祐治 (令和 5 年度理学療法学科保護者役員)
- ④ 東條 賢 (令和 5 年度作業療法学科保護者役員)
- ⑤ 岩朝 利雄 (三溪同窓会役員)
- ⑥ 東田 武志 (理学療法 業界団体関係者)
- ⑦ 細川 友和 (作業療法 業界団体関係者)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

- 第 1 回委員会 令和 5 年 5 月 24 日 (会場 徳島医療福祉専門学校 別館会議室)
第 2 回委員会 令和 6 年 3 月 29 日 (会場 徳島医療福祉専門学校 別館会議室)

3 学校関係者委員会報告

別紙のとおり。

以上

【別紙】

I 令和5年度重点目標について

1. 重点目標①：「建学の理念ならびに教育目標を達成するため、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー、アセスメントポリシーに沿った教育活動を展開し、より一層の高みを目指した学校運営を行う。」について

- ・災害時のリハビリテーション医療の在り方など今後さらに必要性は高くなると思われます。本学の存在価値をアピールできる機会だと思ひます。
- ・学校教育法や理学療法士・作業療法士法に則り、「人格尊重」を建学の精神・教育理念に、人間愛に満ちたコミュニケーション能力や協調性を備えた理学療法士・作業療法士の育成に努めている。

2. 重点目標②：「第2期中期目標（令和4年度から令和9年度まで）の達成に向け、より実効的な対策を講じる。」について

- ・様々なものが値上がり傾向にあり、設備等の整備は難しさがあると思ひが、うまく対応し順調であることは良いことであると思ひます。
- ・入学定員の安定的確保と学業達成率の向上は喫緊の課題である。鹿背山寮敷地の校有化や杉の実寮の閉鎖、自転車置き場の借地返還などを着実に進め経営の効率化・財政のスリム化を図っている。
- ・在校生と卒業生の交流や同窓会のイベントなど、本校の持つコミュニティを強化してみてもどうか。本校の魅力の一つとなると思ひます。

3 重点目標③：「学校の将来を見据え、教職員のキャリアアップを推奨し、指導力、事務処理能力の向上を図る。」について

- ・良い指導者の下に良い学生は集まってくると思ひます。教員の多忙化は課題ですが、上手くバランスを取りながら教員のスキルアップに努めてほしい。
- ・教職員のスキルアップや指導力の向上は魅力ある学園作りに不可欠である。その実現に向けて学園内の更なる支援体制の充実が望まれる。
- ・認定療法士の資格取得に向けた各教員の進捗状況の把握や取得目標の設定が必要ではないか。

4 重点目標④：「本校創立30周年記念事業を実施する。」について

- ・本学らしい良い式典だったと思ひます。創立時は東四国国体が開催された年でもあり、大変だったろうと思ひます。教職員と学生が一緒になって取り組む姿は今もなお続いていると思ひます。本学の良さを再確認できた様に思ひます。
- ・“つながる徳医専”をキャッチフレーズにして個性あふれる「創立30周年記念事業」が周到に準備され円滑に実施できた。卒業生を講師に招いた「記念講演会」は30年の歴史的背景やリハビリテーション医療についての理解がより深まったと思われる。

<p>5 重点目標⑤：「新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類に変更されたが、医療従事者を養成する学校として必要な感染防止対策を引き続き徹底する。」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症自体は沈静化しつつあると思うが、医療従事者として予防・感染対策は継続していくべきであり、本学の信頼感の向上につながると思う。 ・新型コロナウイルス感染症の突発的再流行を想定したサーベイランスの継続、その対策やオンライン授業への備えは今後も継続する必要がある。
--

II 各評価項目について

<p>1 教育理念・目的・人材育成像について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員は常にこんな療法士になりたいというモデルであってほしいと思う。 ・開校以来30年間に及び2200余名の卒業生を臨床に送り出し、高い評価を得ている。少子化の進行する中、多様化する学生に柔軟に対応した教育活動を展開しリハビリテーション教育を推進して頂きたい。
<p>2 学校運営について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理事会、評議員会が効果的に機能していると感じられる。 ・学園の運営方針は理事会・評議員会を通じて民主的に策定され、それらは組織全体に浸透し効率的な学校運営がなされている。
<p>3 教育活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床実習において学生にとっても、受け入れ側にとってもさらにプラスとなるよう充実に努めてほしいと思う。 ・資格、免許の取得を高めるため引き続き専任教員による補習、学業不振者への個別指導、外部講師による特別講義等の継続など細やかで効率的な指導に努めて頂きたい。
<p>4 学修成果について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国家試験の実績、就職率等、見事なものだと思います。 ・令和4年度国家試験合格率は、理学療法学科97.1%、作業療法学科100%となり前年度を上回る成果だった。学業成績の不振や適性に悩む学生に対する対応も引き続き細やかに実施して頂きたい。 ・学業達成率の上昇の為にも各学年における分析や対策といった取り組みが必要と思われる。
<p>5 学生支援について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生やその家庭環境も多様化していると思う。経済的な支援とともに、メンタル面への支援も大事だと思う。 ・学生への求人情報の提示、周知は適切に行われ、求人倍率65倍、就職率100%を堅実に維持できている。今後、入学生の能力や適性も多様化すると思われる。指導する教員に更なる力量が求められる。 ・経済的理由により退学を選択せざるを得ない学生に対して、法人としての何かしらの支援ができないかどうか考えてもらいたい。

6 教育環境について

- ・落ち着いてきたとはいえ、新型コロナウイルス感染症対策は外部の方々にも分かる形で続けていくべきだと思う。
- ・職員の勤務体制を柔軟に対応させ、学生の学校施設使用における安全性向上を図っている点は高く評価できる。また、交通安全講話や通学路の立哨指導を3地点で実施する等、学生の通学マナーの向上と交通安全に努めていることは評価できる。
- ・夏季休業を挟んでの前期試験結果やその前に進路変更を検討する学生がいると聞く。前期試験後に夏季休業となるスケジュール変更は可能かどうか。
- ・教室以外にも学生が学年を越えて気軽に談話ができる自由なスペースを設け、学生間交流を促進してみてはどうか。

7 学生の募集と受入れについて

- ・県外からの入学希望者の受験動機が、本学の高い合格水準であったということを知り、本学の目指す方向性が間違っていないことが感じられた。
- ・高校生人口の減少に伴い、志願者数は減少しており、作業療法学科の入学者数が定員割れと厳しい状況にある。入試説明会、進学説明会やオープンキャンパスにおける高校生の参加者数増を図る体制づくりが急がれる。
- ・県内の高校生が減少する中、県外のアドバイザーを迎えての対応は非常に良いと思う。

8 財務について

- ・入学者獲得競争の厳しさが増す中、財政状況の悪化が懸念されるが、よく対応しているように感じられる。
- ・入学者の定員割れが続くと財政上の逼迫を招き、適切な学校経営や教育活動の推進に支障をもたらす。今年度から県外への進学アドバイザーを新しく委嘱したことを受けて入学者が増加することを期待したい。

9 法令等の遵守について

- ・改正の方向性など評議員会等でしっかり議論すべきだと思う。
- ・関係法令及び諸規則に則り、教育課程の編成、施設・設備・備品の設置を行い、適切な学校運営、教育活動が推進できている。

10 社会貢献・地域貢献について

- ・町内の学校や施設との新たな交流ができればと思う。
- ・地元の勝浦町と公私協力式による学校運営が行われ、県や近隣市町村、高等学校等から学園の教育資源に期待する所は大きい。コロナ禍が一息ついた所でもあり、社会・地域貢献を積極的に推進して頂きたい。

III 特記事項

--